

2022 年度(第 4 回)日本口蓋裂学会認定師認定審査について

－ 耳鼻咽喉科分野の手引き －

日本口蓋裂学会では、多職種連携のもと、より良い口唇裂口蓋裂治療を実践していただくべく、また、国民に対して本疾患治療の専門性の理解を深めていただくべく 2019 年度より日本口蓋裂学会認定師制度を導入しております。審査は、書類審査で行いますが、申請者自らの分野での口唇裂・口蓋裂治療の具体的症例に加え、他分野との連携した治療についての代表的な経験症例を重点症例として提出していただき、それら書類について認定師認定委員会において、他分野の委員の陪席のもと公正に審査を進めていきます。

申請者は、手引き内容に従い、経験が十分判断されるように説明と資料添付を行い、漏れや誤りなく、期限厳守で提出をしてください。

2022 年 6 月 20 日
認定師認定委員会
委員長 飯田征二

1. 耳鼻咽喉科分野での資格要件の追加

日本耳鼻咽喉科学会専門医、あるいは機構専門医であることを要します。

履歴書（書式 2）に専門医番号の記載と専門医証のコピーの提出をしてください。

2. 書式 4、5、6 の説明

書式 4：重点症例記録（Powerpoint； A4（横）プリントアウト）

主たる担当症例 3 症例

- ・申請者が、主として自ら治療を担当した代表的症例の治療記録を出してください。
- ・以下の 4 項目から選択
 - a. 癒着性中耳炎、真珠腫性中耳炎、慢性中耳炎手術のいずれか 1 例以上
 - b. 滲出性中耳炎の鼓膜換気チューブ留置を含む治療例（2 例まで可）
 - c. 鼻咽腔閉鎖機能不全例の診断・治療歴（ファイバー検査など）（2 例まで可）
 - d. 言語聴覚士と連携した診断・治療例（相互の治療関係も記載）

中耳炎症例は術前・術後の聴力検査結果、術前の画像検査、手術所見などを添付してください。

鼻咽腔閉鎖機能不全例はファイバー所見を添付してください。

書式5：報告症例記録（Excel A4；（縦）プリントアウト）

ミニレポート 5 症例

- ・申請者が、指導、執刀、助手として治療に関与した手術症例・治療例の治療記録を出してください。
- ・以下の項目から選択してください。（いずれでも可）
 - a. 滲出性中耳炎
 - b. 癒着性中耳炎
 - c. 真珠腫性中耳炎
 - d. 咽頭形成術（咽頭弁形成術など）
 - e. 鼻咽腔閉鎖機能不全診断・治療（ファイバー検査など）
 - f. 言語聴覚士と連携した診断・治療例（相互の治療関係も記載）

症例ごとに手術・治療内容が理解できる付図1点以上を必ず添えてください。

記載は明朝フォント12Ptで記載し、A4用紙1枚に症例毎に記載すること。

指導者がいる場合は指導者氏名を記載すること。

*：注意点：提出症例の扱いについて

- ・重点症例と手術内容が同一である場合は、報告症例への重複提出は不可とします。ただし、手術が異なれば可とします。
- ・2名が同一症例の同一手術の術者である場合は、その症例をそれぞれの術者が同時期、別時期を問わず重点症例あるいは報告症例に提出することを可とします。なお、術者数の上限を2名とします。ただし、疑義がある場合は、手術記録の提出などを求めることがあります。

書式6：業績目録（Word；A4（縦）プリントアウト）

申請者の下記条件の業績を列記してください。

- ・口唇裂・口蓋裂に関する医療系雑誌、学術雑誌の論文あるいは著書など代表的なもの1件（共著者でも可）。
- ・口唇裂・口蓋裂に関する学会、研究会などでの代表的な発表2件（共同発表者でも可）。
- ・注意事項を守って記入し、氏名の自署、捺印をしてください。

3. 問い合わせ、送付先

症例内容などの学術的質問、あるいは申請書類の記入方法、申請方法などの事務的質問は、日本口蓋裂学会事務局に、所属分野とご氏名を申し出て、お問い合わせください。

1) 認定師認定委員会委員 (○：分野責任者)

○小林一女 (昭和大学)

・楯谷一郎 (藤田医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)

2) 日本口蓋裂学会事務局

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11

TEL:03-5620-1953 (受付可能時間 9:00~17:00)

e-mail: jclp-service@onebridge.co.jp